

開講科目名	異文化コミュニケーション演習B		
成績入力担当	黒田 千晴	開講区分	単位数
		第2クォーター	0.0単位
ナンバリングコード	R1IG090	曜日・時限等	月3(対面)
		時間割コード	

授業のテーマ

授業のテーマ：

本授業のテーマは「異文化コミュニケーション」である。一般的に、異文化コミュニケーションとは、文化背景の異なる人々との間で起こるコミュニケーションであると理解されている。しかし、文化の違いには、出身国、地域、国籍、言語の違いだけでなく、社会階級や階層、世代、ジェンダーの違いに起因する多様な差異も含まれる。

本授業では、授業を履修する学生たち、そして授業担当教員を学びのコミュニティのメンバーとしてとらえ、個々人が持つ文化言語背景、属性や特徴、これまでの来歴や経験などの多様性を、自己理解、相互文化理解や異文化間能力の向上につなげていく。

本授業では、日本の大学のキャンパス内で起こりうる身近な事象を取り扱ったケース教材を題材として、多様性や異文化理解に関連する理論や概念などについて学ぶ。さらに、授業内でのグループワークや応用演習を通して、学んだ理論や概念を実生活でどのように援用していくか想像できるようにする。

一連の学習を通して、受講生たちが、授業終了後も引き続き多様性に対して興味関心を持ち、積極的かつ自立的に継続して異文化間能力の向上に努める姿勢を身に着けることを目指す。

授業の到達目標

授業の到達目標：

1. 日本の大学のキャンパス内で起こりうる身近な事象を取り扱ったケース教材を題材として、多様性や異文化理解に関連する理論や概念などについて基礎的な内容を理解する。
2. 授業で学んだ多様性や異文化理解に関連する理論や概念などを実生活でどのように援用していくか想像することができる。
3. 多様な文化言語背景を持つ他の受講者のコミュニケーションスタイルや協働の仕方などを踏まえたうえで、積極的かつ協力的に協働できる。
4. 口頭（ディスカッション・プレゼンテーション）及び文章（リフレクションノート及びレポート）で、自らの意見をわかりやすく正確な日本語で表明することができる。

授業の概要と計画

【授業形態】対面

当該授業は、原則として異文化コミュニケーション演習Aの授業と連続して履修すること。
暫定的な授業のスケジュールは以下の通り。学習の進捗状況に応じて変更することがある。

第1回(6/15)授業ガイダンス・ケーススタディ④ケースの検討・グループディスカッション

第2回(6/22)ケーススタディ④ケースの解説・応用課題（グループワーク）

第3回(6/29)ケーススタディ⑤ケースの検討・グループディスカッション

第4回(7/6)ケーススタディ⑤ケースの解説・応用課題（グループワーク）

第5回(7/13)ケーススタディ⑥ケースの検討・グループディスカッション

第6回(7/22)ケーススタディ⑥ケースの解説・応用課題（グループワーク）

第7回(7/27)最終試験と総括

第8回(8/3)授業の振り返り

週1回全8週

1科目15時間

成績評価方法

成績評価方法：

授業への参加度（グループディスカッションやグループワークへの参加及び全体ディスカッションでの意見表明など）50%、課題（グループ課題を含む）30%、最終試験20%で評価する。

成績評価基準

成績評価基準：当該授業での学習を通して、

1. 日本の大学のキャンパス内で起こりうる身近な事象を取り扱ったケース教材を題材として、多様性や異文化理解に関連する理論や概念などについて基礎的な内容を理解しているか。
2. 授業で学んだ多様性や異文化理解に関連する理論や概念などを実生活でどのように援用していくか想像することができるか。
3. 多様な文化言語背景を持つ他の受講者のコミュニケーションスタイルや協働の仕方などを踏まえたうえで、積極的かつ協力的に協働できたか。
4. 口頭（ディスカッション・プレゼンテーション）及び文章（リフレクションノート及びレポート）で、自らの意見をわかりやすく正確な日本語で表明することができたか。

※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF（不可）とする。

履修上の注意（関連科目情報）

対象者：

本授業は上級レベルの授業である。オンラインプレイスメントテストの結果が上級レベルであること。

関連科目情報：

異文化コミュニケーション演習Aと連続して履修すること。

履修上の注意：

毎授業必ず各自パソコン（あるいはタブレット端末）を持参すること。

事前・事後学修

準備学習・復習：

授業の予習として、ケース教材の読解部分について、語彙の意味調べ、漢字の読み方の確認、表現や文法のわからない箇所の予習を行うこと。毎回の授業の復習として、LMSでリフレクションノートを提出すること。これらに加えて、適宜、課題（グループ課題を含む）が出されるので、教員の指示に従って課題に取り組み、期日までに提出すること。

オフィスアワー・連絡先

黒田千晴 木曜日10:30-12:00（要事前連絡）

kuroda@port.kobe-u.ac.jp

六甲台第2キャンパス（文理農学部キャンパス）神戸大学百年記念館・グローバル教育センター3階 黒田研究室

学生へのメッセージ

指導教員や研究室の院生とのコミュニケーションなどで質問があれば、オフィスアワーの時間に気軽の相談してください。

今年度の工夫

ビデオクリップなどのビジュアル教材を導入します。

教科書

授業で使用するケース教材は、LMSで提供する。

参考書・参考資料等

参考資料のリストは初回授業時に紹介する。

異文化コミュニケーションワークブック / 八代京子、荒木晶子、樋口容視子、山本志都、コミサロフ喜美：三修社，2001，ISBN:9784384018516

異文化理解とコミュニケーション1【第2版】 / 本名信行、ベイツ・ホッフア、秋山高二、竹下裕子：三修社，2005，ISBN:9784384040715

異文化コミュニケーショントレーニング / 山本志都、石黒武人、Milton Bennett、岡部大祐：三修社，2022

授業における使用言語

日本語
日本語

キーワード

異文化コミュニケーション、特別聴講学生（交換留学生）可、パソコン、タブレット